

豊かにかかわり 高め合う 鳩森の子

～シブヤ未来科の実践を通して～

第1学年 生活科 学習指導案

令和5年12月5日（火）6校時

渋谷区立鳩森小学校 1年1組

授業者 君嶋 和人

1 単元名 「あきのすてき見つけよう」 「ふゆのすてき見つけよう」

2 単元の目標

(1) 「あきのすてき見つけよう」

秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。

(2) 「ふゆのすてき見つけよう」

冬の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付け、遊びの面白さや自然の不思議さ、身近な自然の様子、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。

3 本単元で育成を目指す資質・能力（評価規準）

(1) 「あきのすてき見つけよう」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	内容(5)「季節の変化と生活」 内容(6)「自然や物を使った遊び」		
	秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。
小単元における評価規準	1 色や形、においなど、秋の校庭の自然の様子と、夏の校庭の自然の様子との違いに気付いている。	幼児期や日常の経験を思い起こして、秋の自然の特徴を探している。	

	2	身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付いている。	秋の自然の変化を予想して、夏の自然との違いを探している。	
	3		秋の自然物を使うと、どんな遊びになりそうかを想像しながら、遊びに使う自然物を選んでいる。	秋の自然と関わりたいという思いをもち、試行錯誤しながら、秋の自然を生かした遊びを楽しもうとしている。
	4	季節によって楽しめる遊びがかわるなど、季節によって生活の様子が変わること気付いている。		季節を生かして遊ぶことに楽しさと手応えを感じ、これからも季節の遊びを楽しもうとしている。
	5	いつも同じ現象が起こるなど、自然の中に一定のきまりがあることに気付いている。	さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選び、おもちゃをつくっている。	
	6	自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。	みんなで創った遊びをする際に、遊びのルールを守っている。	自分で遊びを創り出す面白さを実感し、これからも遊びを創り出そうとしている。

(2)「ふゆのすてき見つけよう」

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		内容(4)「公共物や公共施設の利用」 内容(5)「季節の変化と生活」 内容(6)「自然や物を使った遊び」		
		冬の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付いている。	冬の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりしている。	冬の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れたり、公園など身の回りの公共施設を大切に利用したりして、自分の生活を楽しくしようとしている。
小単元における評価規準	1	校庭の自然の様子が、冬になって変化していることに気付いている。	これまでに関わった校庭の様子と比較して、冬の特徴を探している。	季節の自然と関わりたいという思いをもち、冬の特徴を生かして楽しく遊ぼうとしている。
	2	公園には、自分たちが気持ちよく使えるように支えている人々がいることに気付いている。	自分の生活と、公園や公園を支えている人々とのつながりを思い描き、支えている人と話したり質問したりしている。	

3	自然の現象の中に、一定のきまりがあることに気付いている。 おもちゃづくりに際し、道具や用具の準備、片付け、整理整頓ができています。	自然現象を生かしたおもちゃで繰り返し遊び、原因を探りながらおもちゃを改良したり、遊びを発展させたりしている。	
4		雪や氷の特徴を生かした遊びを何度も繰り返し、友達と遊びを発展させている。	雪や氷を使って楽しく遊べることを実感し、季節の自然を生かして自分の生活を楽しくしようとしている。
5	季節に合わせて、自然の様子や生活の様子が変化していくことに気付いている。		季節の変化に合わせて身近な自然の様子や生活の様子が変わることを実感し、これからも季節に合わせて自分の生活を楽しくしていこうとしている。

4 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本校は、大きな繁華街である新宿や渋谷に近い都会の学校ではあるが、新宿御苑や明治神宮・代々木公園など自然豊かな環境にも恵まれた地域にある。けれども、校内に昆虫や樹木が多いわけではなく、自然に積極的に関わろうという姿勢はあまり感じられない。春に新宿御苑に出かけた際、新緑のイチヨウの葉を見て「黄色くないからイチヨウだとは思わなかった」というつぶやきが聞かれるなど、季節と自然の変化についての知識と経験が結び付いていない児童もいるようである。

小単元「むしをさがそう」の学習で昆虫探しをしたが、校内ではほとんど見付けることができなかった。けれどその後、休み時間に大きなバッタやカマキリ、クモなどを見付けてくる児童が現れると、自分も虫を見付けたい、育ててみたいという意欲関心が学級内で高まった。また、小単元「はっぱやみであそぼう」では、オシロイバナの種について話題にしたところ、校内・校外でたくさん見付けてくる子が現れ、どこに行けば見付かるか、何個見付けたかなどの情報交換が始まった。担任が自宅近くで見付けたどんぐりを紹介したところ、たくさんの児童が自宅近辺で拾ったどんぐりやまつぼっくりを持ってきてくれた。

これらのことから、自然について関心が高いわけではないが、きっかけや視点を与えると興味をもって主体的に取り組み関わろうとする児童が多いと言える。本単元を通じて、自ら自然の不思議さに気付いたり美しさを感じ取ったりし、それを多くの人と共有し、学んだことを自分の生活に生かすことのできる児童の育成を図りたい。

(2) 教材について

「あきのすてき見つけよう」の単元では、1年の中で一番季節の変化を感じ取ることができる秋という季節に、学校内や新宿御苑で秋探しを行った。見る、触る、嗅ぐをはじめとする様々な感覚

を使って、秋を体全体で感じながら自然と触れ合うことで、自然を使った遊びの面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことで、季節によって自分たちの遊びや生活の様子が変わることを知ることをねらいとしている。また、自分自身で体験したり活動したりして、感じたことや気付いたり分かったりした秋の楽しさや面白さを、自分たちが作った物でいっぱいにした教室にして保育園児に伝える秋祭りを通して、人と関わる楽しさや相手に対しての思いやりに気付くことができると考える。さらに、自然の恵みを実感し、自然を大切にしようとする気持ちを育むとともに、自分ができることを考え、行動する児童を育成する上からも有意義であると考えている。

「ふゆのすてき見つけよう」の単元では、観察できる動植物が少なくなると思いがちな冬の季節でも、雪や氷というような自然物や霜柱や北風といった自然現象や冬に咲く花や冬芽など、その季節ならではの「すてき」はたくさんあるのだということを、これまでの活動の経験を生かして気付かせていきたい。

5 主題に迫るための手だて

(1) 探究課題の設定

①季節による自然の変化についての探究課題

本校では、地域教材として新宿御苑を活用している。春の遠足で訪れた新宿御苑でオリエンテーリングを行った際、季節による自然の変化という視点をもたせたるために、秋に紅葉・黄葉する樹木を指導者が選び、その木とともに写真を撮る課題を設定した。季節が秋になり、校内で秋探しをした際に、春と様子が変わった植物に気付いたり春には見られなかった昆虫を見付けたりしたことから、季節により自然は変化するのではないかという視点が生まれた。そこから、春に見た新宿御苑の樹木が秋になるとどう変わっているのかという課題が生まれ、観察の結果を学級内で発表し合う活動につながった。

また、地域の公園や新宿御苑で見付けたどんぐりや葉などを遊びや飾りに活用しようという課題も生まれ、おもちゃづくりなどの活動を経て学級内で秋祭りを楽しむことができた。

②保育園児という相手意識をもつことによる探究課題

「あきのすてき見つけよう」の単元では、上記の発表や秋祭りを自分たちだけでなくたくさんの人たちと共有したいという児童の願いを受け、その相手をオープンスクールで関わりのある保育園児とすることにした。その計画を進めていく中で、学級内で行った発表や遊びをそのまま園児が理解できるだろうか、楽しめるだろうかという新たな課題が生まれてくる。本時では、この課題を解決するための話し合い活動を行うこととした。

③クイズのヒントを考えることで季節の特徴に気付かせる探究課題

発見した冬特有の自然や遊びを答えとするクイズのヒントを考える課題を設定することで、季節の特徴について考える活動を行う。さらに、学級全体でクイズ大会を行うことで冬の季節についてのたくさんの特徴や見方が集まり、それらを仲間分けしていくことで季節の共通点を見付けることができると考えた。

(2) 指導方法の工夫

「あきのすてき見つけよう」の単元では、保育園児も楽しめる秋祭りにするためにどうしたらいい

いかについて話し合う際に、付箋紙を用いた「さくせんボード」を用いる。まず、個人で付箋に考え（おもちゃを扱いやすいものに改造する、点数が入りやすいルールに変更する、説明が難しい部分は写真を使う等）を書く。そして、グループごとにボードに付箋紙を貼りながら、整理・分類する。この活動を通して、個人の考えからグループでの考えに広げ話し合う必然性が生まれ、よりよい考えにまとめていこうという思考の流れができる。話し合うことにより自分と同じ考えがあることに気付いたり、友達と違う考えに触れたりすることができると思った。また、似ている考えの中でも、どの考えがより妥当であるかを話し合うためにもこの方法は有効であると考えた。

さらに、話し合いの途中でさくせんボードをお互いに見せ合う「見せあいつこタイム」をとる。お互いの進捗状況を見合い情報交換することにより、考えの方向性の正しさの確認（あるいは修正）をしたり、よりめあて達成に近付くためのヒントを得たりすることができると思った。

「ふゆのすてき見つけよう」の単元では、さくせんボードを情報の軽重や順番を判断するためのツールとして活用する。クイズの答えのヒントとなる情報を思いつくまま付箋に書き出し、規定のヒント数に絞っていく際の抽出やヒントを出す順番を考える際の貼り換えをさくせんボード上で行うこととする。

さらに、話し合いの途中で秘密を共有するペアの友達と考えたクイズを出題し合い、評価し合う「ひみつさくせんタイム」をとる。そのことにより、他者の考えを取り入れることでより質の高いクイズとなり、学級全体が季節について深い気付きが得られることを期待する。

(3) 各教科との関連

国語科「ききたいな、ともだちのはなし」の単元では、夏休みの自由研究の制作過程を写真に撮り、オクリンクで発表する活動を行うことで、視覚に訴える説明の仕方のよさや、ICTを活用することでそれぞれの考えを簡単に共有できることを学習した。また、国語科の「しらせたいな、見せたいな」では、視点(色、形、大きさ、触った感じ、動きなど)をもって観察することで、対象物の特徴や性質についてより科学的な見方で捉えたり伝えたりすることを学習してきた。また、音楽科の授業では、「真っ赤な秋」や「もみじ」などの季節の歌を積極的に取り入れることで、季節についての関心を高め、自身の生活経験と季節を結び付けられるようにしてきた。

また、国語科「これは、なんでしょう」の単元では、問題にするものの形や働きなどをヒントにクイズを出題する学習を行った。この学習を生かすことで、本単元の目標達成により近付けると考えた。

6 単元の活動計画

「あきのすてき見つけよう」(21時間)

	探究的な学習の過程	指導のポイント
きを さが さう ③ あ	<p>○校庭で、初秋の草花や樹木、虫などの動植物を観察したり、木の実などを使ってその場で友達と簡単な遊びをしたりする。</p> <p>○夏の頃と比べて、変わっているところを話し合い、記録カードにかく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最近見られる草花や樹木、虫について話し合ったり、夏の様子と比較したりすることを通して、活動への意欲を高める。 ・児童相互の学びの質が高まるよう、質疑応答の場を設けたり、発表児童や聞いている児童に尋ねたり、価値付けたりする。

を さ が さ う ③ あ き	○公園で秋を探ることについて話し合い、ルールやマナーを守りながら公園に行き、遊んだり自然を観察したりする。 ○教室に戻ってきて、公園での活動で楽しかったことや気付いたことについて話し合い、記録カードにかく。	・「夏と比べてどうですか」と尋ねたり「先生にも教えて」と促したりして、新たな発見や遊びの特徴への気付きを引き出す。 ・「夏の頃と比べて、違ったことはどんなことですか」と問うことによって、思考の深まりを促す。
あ そ ぼ う ③ み で	○秋の自然の中で遊ぶ活動について話し合い、秋の自然の中で遊んだり、葉や木の実などの自然物を使った遊びを工夫したり、簡単なおもちゃをつくったりする。 ○秋の自然の中での遊びを振り返り、気付いたことを話し合い、記録カードにかく。	・学習活動への見通しをもてるよう、「どんな遊びをしたいか」「遊びに使う物はあるか」と尋ねる。 ・児童とともに遊びを楽しみながら、秋の自然の特徴への気付きや、夏の頃とは違う遊びの工夫など児童の姿から見取る。
え よ う ① あ き の こ と を つ た	○秋の自然の中で活動したことを振り返り、友達と紹介し合う。	・秋の自然の中での活動を通して見つけた秋のお薦めを「みんなに教えよう」と投げかけ、児童が本時の活動への見通しをもてるようにする。 ・秋のお薦めについて全体で紹介し合う場では、自然の様子や四季の変化、生活の様子の変化などについての気を認め、価値付ける。
あ き の お も ち や を つ く ろ う ⑦	○秋のおもちゃをつくる活動について話し合い、校庭や公園などで集めた葉や木の実、身の回りから集めた材料を使って遊ぶ。 ○おもちゃや楽器を工夫してつくりながら遊び、自分がつくったおもちゃや楽器を改良したり、つくるおもちゃを変えたりして楽しむ。 ○つくったおもちゃで友達と一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるようにつくり方や遊び方を工夫し、みんなで遊びを楽しむ。	・「つくる→遊ぶ→振り返り・見通す→つくる→…」という一連の流れを全体で確認する。 ・「もっと楽しく遊ぶにはどうすればいいですか」と問い、児童が互いの気付きを交流できるよう、「遊び→振り返り・交流→工夫→遊び」の一連の流れを全体で確認する。
う ④ い っ し よ に あ そ ぼ	○自分がつくったおもちゃで園児と一緒に遊ぶために話し合い、準備する。 ○自分がつくったおもちゃで園児と一緒に遊びを楽しむ。 ○おもちゃをつくったことや遊んだことを振り返り、記録カードにかく。	・園児に「してあげる」のではなく、「一緒に楽しく遊ぶ」ことを全体で確認する。 ・児童が振り返りやすくなるよう、「おもちゃづくり」「遊んだこと」など大まかな視点を板書に示し、児童の発言に沿って整理していく。

「ふゆのすてき見つけよう」(11時間)

	探究的な学習の過程	指導のポイント
1 そう (2) こうていで ふゆを さが	○校庭で、冬の動植物を観察したり、霜柱や氷など冬特有の自然を観察したり、友達と遊んだりして、気付いたことを記録カードにかく。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常会話などを基に、校庭で見られる自然の様子について、夏や秋の活動を想起し、今はどうなっているのか活動への意欲を高める。 ・「夏や秋の頃と比べて変わったところはどんなところでしたか」と問い、児童が見付けたことを話しやすいよう、「草花・木」「虫」「冬のもの」「そのほか」などの視点を示す。
2 ふゆの こうえんへ いこう (3)	<p>○冬の公園での活動について話し合い、ルールやマナーを守りながら公園に行って、遊んだり自然を観察したり公園にいる人と関わったりする。</p> <p>○教室に戻ってきて、公園での活動を通して気付いたことについて話し合い、記録カードにかく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りを基に、冬の公園で何をしたいのか、児童の思いや願いを板書に大まかに整理する。 ・「夏や秋と比べてどうですか」と尋ねたり「先生や友達にも教えて」と促したりして、児童なりの気づきを引き出す。 ・全体での話し合いだけでなくペアやグループで話し合う場を設けることによって、児童が自分自身の気づきを明確にしたり、それをスムーズに表現したりすることができるようにする。
3 そとで あそぼう (3)	<p>○風を利用して、友達と一緒に簡単な遊びを楽しむ。</p> <p>○風を利用したおもちゃをつくり、風を利用して友達と一緒に遊びを楽しむ。</p> <p>○実際に遊んで気付いたことや友達の工夫を参考にして、自分のおもちゃをさらに工夫して、気付いたことを記録カードにかく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を基に、どんな遊びをしたいか話し合う場を設け、児童が学習活動への見通しをもてるようにする。 ・遊び始めは、全身で風を感じる時間を十分とる。遊びの中では児童の発する言葉などから児童なりの気づきを見取り、共感する。 ・同じおもちゃをつくる児童同士でグループをつくるようにする。 ・条件を変えながら工夫して遊ぶものをつくったり、その面白さや風の不思議さなどに気付いたり、友達と楽しみながら遊びを創り出そうとする児童の姿を見取る。 ・グループの中で振り返る場を設け、児童が次時への見通しをもてるようにする。また、全体の場でも確認する。

		<ul style="list-style-type: none"> グループで児童の気づきを交流し、さらに全体の場で紹介し合う時間と場を設定する。
4 ゆきや こおりで あそぼう ①	<p>○体全体を使って雪や氷に触れたり、雪や氷を使った遊びを工夫したりして、友達と遊びを楽しむ。</p> <p>○友達と、自分のお薦めの遊びを教え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が活動に没頭し、冬の楽しさや雪・氷の不思議さ、面白さ、友達と遊ぶ楽しさを実感できるよう、活動の場所と時間を十分確保する。 手洗いや汗の始末、着替えなどを徹底する。 振り返りの活動では「自分がした遊び」「楽しかったこと」などの視点に基づき、全体で大まかに話し合う場を設け、お薦めの遊びを友達と教え合うという活動の見通しを持てるようにする。
5 ふゆの ことを つたえよう ③	<p>○冬の自然を観察したり遊んだりしたことなどを振り返り、クイズを出題し合うことで友達と交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 導入場面では、国語科「これは、なんででしょう」の要領で、クイズ大会をすることで発表し合うことを伝える。 これまでの活動を想起する場面を設定するとともに、「夏や秋とどこが変わっているでしょう」と問い、児童が本時の学習活動への見通しをもてるようにする。 児童が気づきを十分に交流できるよう、多様な学習形態をとる。 個別の気づきを全体で認め合えるよう、板書に整理する。

7 本時（17/21）

（1）ねらい

園児の気持ちを想像しながら、一緒に楽しめる秋祭りにするための作戦について話し合う。

（2）学習指導過程

	○学習活動 ・予想される児童の反応	・留意点 □評価
導入	<p>○前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生で楽しんだ秋祭りに、今度は保育園の友達を招待したいです。 うまくいかなかったところを、今度は上手にやりたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生同士で行った秋祭りで経験した反省事項を振り返り、年少者である保育園児が楽しく遊べるようにするためにどんな作戦を立てたらいいかという話合いの方向性を確認する。

<p>展開</p>	<p>④ほいくえんの子もたのしめるすてきなあきまつりにするためには、どうしたらいいかかんがえよう。</p> <p>○話し合う視点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃでつくり直した方がいいところがあります。 ・遊びのルールを簡単にした方がいいと思います。 ・説明を分かりやすくしたいです。 <p>○同じお店のグループで「さくせんボード」に付箋を貼りながら作戦を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壊れやすい部分を丈夫にした方がいいと思います。 ・けん玉の紙コップを大きくしたら、入りやすくなって楽しいと思います。 ・ひもの長さを変えたらよいと思います。 ・まといの投げる場所を近くにすると入りやすくなると思います。 ・前に振って入れようとするのではなく、膝を使って紙コップを上下に動かすとよいことを教えてあげたらよいと思います。 ・使う言葉をもっと簡単なものに変えると分かりやすいと思います。 ・もっとゆっくり話すといいと思います。 <p>○どんな作戦が立てられたかを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言を取り上げつつ、 <ol style="list-style-type: none"> ① おもちゃの部分的な補強や変更 ② 遊びのルール変更 ③ 分かりやすい説明 の3つの視点を示すようにする。 ・活動の見通しがもてるように、手順を確認する。 ・必要な道具（ホワイトボード、ペン、付箋紙）を準備する。 ・途中に「見せあいつこタイム」を設定することで、お互いのさくせんボードを見合いながら情報交換ができるようにする。 <p>☒ どうしたら園児と一緒に楽しめる秋祭りに行けるかを友達に話している。(発言、付箋紙、さくせんボード)</p>
<p>終末</p>	<p>○本時の活動を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの考えをもとに自分たちの作戦を立てることができてよかったです。 ・考えた作戦をもとに、次の時間はおもちゃを作り直すために必要な材料を集めます。 ・考え直したルールを易しい言葉で説明できるように練習します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動の見通しをもてるよう、次時の学習内容を確認する。

7 本時 (10/11)

(1) ねらい

発見した冬特有の自然や遊びの特徴に気付き、「ふゆのすてき」についてのクイズをつくることができる。

(2) 学習指導過程

	○学習活動 ・予想される児童の反応	・留意点 □評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・校庭や新宿御苑でたくさんの「ふゆのすてき」を見付けました。 ・風車や凧で遊びました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬について学習したことを、国語の「これは、なんでしょう」で行ったクイズの要領で発表しようと投げかけ、活動への意欲につなげる。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>㊦とくちょうをかんがえて、「ふゆのすてきクイズ」をつくろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○クイズの答えとなるものを考え、決める。 ・新宿御苑で見付けたスイセンの花にします。 ・霜柱にします。 ・凧あげにします。 ○答えにつながるヒントを考える。 ・「これは、なんでしょう」でやってみたように、花の形をヒントにしてみます。 ・霜柱を踏んだ時の音をヒントにしてみます。 ・イチョウの葉は、緑→黄色→なくなったことをヒントにしてみます。 ・風車の羽を同じ向きにひねったら回ったことをヒントにします。 ○どんなクイズができたかペアで問題を出し合ってみる。 ・ヒントの順番を変えた方がいいと思います。 ・最後に写真を見せるといいと思います。 ・そのヒントなら、秋と比べた時のことを付け加えることができると思います。 ○アドバイスし合ったことを生かし、学級のみんなに出題できるように準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に撮影した写真を見ながら考えるとよいことを助言する。 ・活動の見通しがもてるように、手順を確認する。 ・必要な道具(さくせんボード、付箋紙)を準備する。 ・「さくせんボード」にヒントを書いた付箋を貼り、どの順番で言うより楽しくなるかを考えるように促す。 ・「夏や秋と比べて変わったこと」をヒントにするとよいという視点を紹介する。 ・途中に「ひみつさくせんタイム」を設定し、ペアの友達と情報交換ができるようにする。 ㊦冬特有の自然や遊び特徴を考え、ペアの友達にクイズを出題している。(発言、付箋紙、さくせんボード)

終末	○本時の活動を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・「これは、なんだろう」をもう一度読んで、クイズの出し方を練習しておきます。	・今後の活動の見通しをもてるよう、次時には学級でクイズ大会をすることを確認する。
----	--	--